

バーバレラ (1967)

BARBARELLA

BARBARELLA: QUENN OF THE GALAXY

メディア 映画

ジャンル SF エロティック コメディ

製作国 フランス/イタリア

色彩 Color

時間 102分

初公開日 1968/10/26

公開情報 P A R

【解説】

まだハリウッドがコミックを正統なものとして扱っていない時分に、いかにもカルトなJ=C・フォレストのSF劇画を映画にしてしまった製作のラウレンティス（後に作った「フラッシュ・ゴードン」はまさに本作の腹違いの弟）及び監督ヴァディムの慧眼は全く賞賛すべきものだ。脚本のT・サザーンはマッドな世界ばかり任せられるブラック・ユーモリスト。素晴らしい無重カストリップのタイトルバックが終わると、バカンスを楽しむバーバレラに無粋な地球の大統領からのTV電話。“宇宙破壊光線”を発明したデュラン＝デュラン博士をふんづかまえなさいーとの指令に、急遽、進路を変えた宇宙船は磁気嵐に襲われ、とある惑星に不時着。脱出したバーバレラは双子のブロンドの美少女に捕われ、美しい人形のセックス・マシンの拷問を受け、その金属の牙にかかろうという、その時、逞しい髭面のマーク・ハンドに助けられる。しかし、彼が見返りに要求したのは、古式ゆかしいスタイルでの愛の交渉。この西暦4万年の世界では性交は、錠剤を飲み互いの手と手を合わせてするのだが、実際、古いやり方を試みてみるとこれが気持ちよくて、バーバレラ、後ろ髪引かれる思いでその場を去った。3千フィート地底のソゴの町へ向かうと、暴君・黒の女王の圧政に苦しむ町は今しも革命の炎が上がる間際。バーバレラは、女王に盲目にされ飛ぶ力も奪われた天使パイガーをお供に博士を探すが、陰險な宰相の罠に落ち鳥かごの鳥に……。しかし、彼女を襲うのも小鳥たち。けれど、革命騒ぎはいよいよ激しくなって、彼女はドサクサに遂に博士の正体を暴き、これを倒して、再び飛べるようになったパイガーと共に地球に羽ばたくのでした。本当にバカな映画。そのキッチュなエロティシズムは人工美の極致。

【クレジット】

監督	ロジェ・ヴァディム	Roger Vadim
製作	ディノ・デ・ラウレンティス	Dino De Laurentiis
原作	ジャン＝クロード・フォレ	Jean-Claude Forest
脚本	クロード・ブリュレ	Claude Brule
	ロジェ・ヴァディム	Roger Vadim
	テリー・サザーン	Terry Southern
	ジャン＝クロード・フォレ	Jean-Claude Forest
	ヴィットリオ・ボニチェリ	Vittorio Bonicelli
	ブライアン・デガス	Brian Degas
	チューダー・ゲイツ	Tudor Gates
	クレマン・ビドル・ウッド	Clement Biddle Wood
撮影	クロード・ルノワール	Claude Renoir
編集	ヴィクトリア・メルカントン	Victoria Mercanton
音楽	ミシェル・マーニュ	Michel Magne

	チャールズ・フォックス	Charles Fox	
出演	ジェーン・フォンダ	Jane Fonda	バーバレラ
	ジョン・フィリップ・ロー	John Phillip Law	パイガー
	ミロ・オーシャ	Milo O'Shea	デュラン・デュラン
	デヴィッド・ヘミングス	David Hemmings	ディルダノ
	マルセル・マルソー	Marcel Marceau	ピング教授
	クロード・ドーファン	Claude Dauphin	地球の大統領
	アニタ・パレンバーグ	Anita Pallenberg	黒い女王
	ヴェロニク・ヴェンデル	Veronique Vendell	キャプテン・ムーン
	セルジュ・マルカン	Serge Marquand	キャプテン・サン
	ウーゴ・トニッツィ	Ugo Tognazzi	マーク・ハンド